



節分の本



名古屋市図書館発行

読むめやす ★0～2歳 ★★★3～4歳 ★★★★★5～6歳

おにはそと

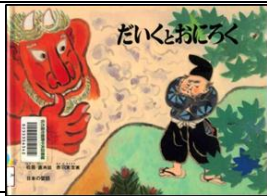
せなけいこ/作・絵 金の星社 絵本 ★★



節分の夜、鬼たちは豆をぶつけられて逃げ出しました。しかし、逃げ遅れたちび鬼は、子どもたちにつかまってしまいます。鬼の親分は豆をぶつけられてもいいように、鉄棒をたたいてよろいを作り、ちび鬼を取り返しに行きます。思わぬ結末が笑いを誘います。

だいくとおにろく

松居直/再話 赤羽末吉/画 福音館書店 絵本 ★★



流れの速い川に橋をかけるのを頼まれた大工は、ふとしたはずみで、自分の目玉と引き換えに鬼に橋をかけてもらうことになりました。立派な橋ができあがると、鬼は「おれの名前を当てれば許してやる」といいます。見開きいっぱい描かれた美しく迫力ある日本の昔話絵本です。

ちいちゃんとまめまき

しみずみちを/作 ほるぷ出版 絵本 ★★



ちいちゃんは、もうすぐ幼稚園にはいります。幼稚園での豆まきの様子を見たちいちゃん、猫のみいちゃん、犬のころちゃんは自分たちも豆まきがやりたくなります。お面を作って、だいちゃんも一緒に「ふくはーそと！おにはーうち！」普通の豆まきとは、逆になってしまいました。

まめのかぞえうた

西内ミナミ/さく 和歌山静子/え 鈴木出版 絵本 ★★



豆を畑の土の中に埋めるところから、豆の成長、収穫、調理までを「かぞえうた」で紹介します。節分の夜は豆まきをして、年の数だけ食べると、福がくるそうです。表紙のたくさんの豆の絵がかわいらしい。裏表紙では鬼も豆を食べています。

まめまきまかせて！ (紙芝居)

荻田澄子/脚本 くすはら順子/絵 童心社 ★★



今日は節分、豆まきです。ところが、まあちゃんは鬼が怖くて豆がまけません。でも、たこや忍者、象、ねずみが、がんばって豆まきをしているのを見て、まあちゃんも一緒に豆をまき、みんなで年の数だけ豆を食べて元気になりました。乳幼児向き節分紙芝居は少ないので貴重です。

おばあちゃんのえほうまき

野村たかあき/作・絵 佼成出版社 絵本 ★★★



節分の夕飯は、恵方巻き。七福神にちなんで七つの具をいれます。きりちゃんとおばあちゃんは恵方巻きを一緒に作って、家族みんなで恵方を向いて、願い事をしながら食べました。それから、鬼のお面をかぶった弟と豆まきをしました。節分の夜の家族の暖かい様子を描きます。

かえるをのんだととさん 日本の昔話

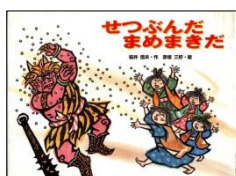
日野十成/再話 斎藤隆夫/絵 福音館書店 絵本 ★★★



腹が痛くなったととさんは、おしょうさんに「かえるを飲むといいぞ。」と教わりました。そこで、かえるを飲んだが腹の具合はよくなりず、へび、きじと次々と飲みこみました。最後に鬼を飲んだととさんの口の中に、和尚さんが節分の豆を投げ入れ退治しました。読み聞かせに向くゆかいな絵本です。

せつふんだまめまきだ (行事の由来えほん)

桜井信夫/作 赤坂三好/絵 教育画劇 絵本 ★★★



いわしとひいらぎを戸口にさすと、鬼はいわしが臭いのと、ひいらぎの葉っぱがとげとげで痛いので家に入ってこられません。「豆を炒って自分の年の数よりひとつ多く食べると病気をしない」、など節分の行事の由来を詳しくストーリー仕立てで紹介します。

せつぶんってなに? (紙芝居)

しらかたみお/脚本・絵 童心社 ★★★



節分の日、人間の家に鬼が来ました。ところが、子どもたちは鬼も豆まきも知りません。節分の説明のため、鬼は豆を炒っていわしを焼き、子どもたちと一緒に太巻きを食べます。そこへ、仲間の鬼が来たので、子どもたちは豆をまいて追い払いました。

なぜ、せつぶんには豆をまくの? (紙芝居)

国松俊英/脚本 藤田勝治/絵 童心社 ★★★



日照りの村に雨をふらせてもらったかわりに、娘は鬼にもられます。しかし、娘は家に逃げ戻り、追いかけてきた鬼に、豆をぶつけて追い払いました。豆には穀物の霊が宿っていて、ふしぎな力があるからです。それからというもの、村人も節分に豆まきをするようになりました。

まゆとおに やまんばのむすめまゆのおはなし

富安陽子/文 降矢なな/絵 福音館書店 絵本 ★★★



お腹が減った鬼は、やまんばの娘とは知らずに、まゆを煮て食べようとお湯の用意をさせます。あつあつのお湯が沸いたお鍋をお風呂だとだます鬼に、まゆは礼儀正しく「おさきにどうぞ」と鍋に鬼を投げ入れてしまいました。情けない鬼と、力持ちの女の子のやりとりがおもしろい絵本です。